



## タイ経済最新情報

2022年11月号

### 9月のタイ景気も引き続き回復基調

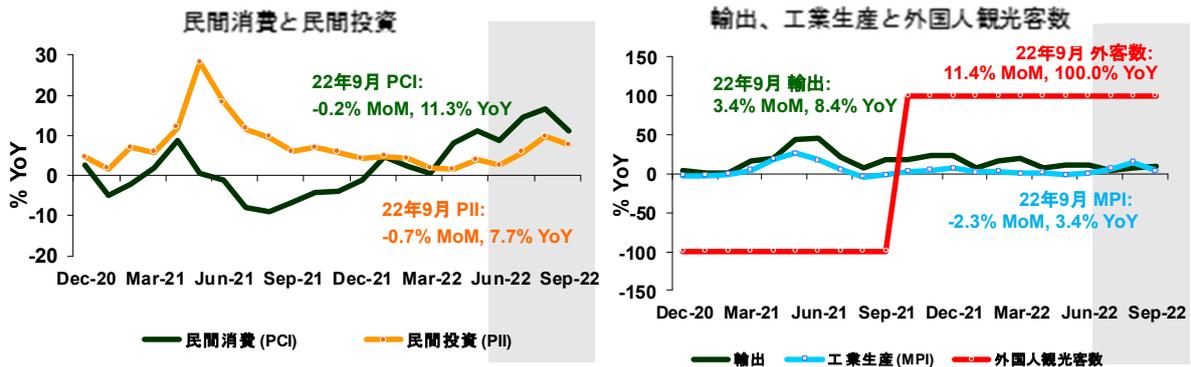
#### 要点

- 2022年9月のタイ経済は改善が続いています。民間消費と投資は前年同月に比べ拡大しました。一方で、先月は鈍化した輸出も改善し、外国人観光客数は回復を続けています。また、外国人旅行者の回復によりサービス部門が回復しています。
- 2022年10月のヘッドライン・インフレ率は、前年同月比5.98%上昇しました。コスト上昇にもかかわらず、市民生活に不可欠な消費財の価格は安定しています。一方で、振れ幅の大きい生鮮食品とエネルギーを除くコア・インフレ率は、前年同月比3.17%の上昇となっています。
- カシコリサーチセンターは、2023年のホテル・宿泊施設の売上高が5,000億～6,000億バーツとコロナ前を下回ると予測します。2023年には外国人旅行者数が2022年見込み比2倍近く増加するほか、イベント・セミナーも回復してホテル業の成長を後押しするものの、不安定要素がまだ多くあり、ホテル・宿泊施設事業の回復の全体に下押し圧力がかかっています。
- また、カシコリサーチセンターは、2023年のホテル・宿泊施設の稼働率が52～60%と予測します。依然として新型コロナウイルス感染症流行前の2019年の70%を下回り、ホテル間の競争も激化すると見込まれます。

## タイ経済の動向

### □ 2022年9月のタイ経済情報

タイ中央銀行が発表した2022年9月の重要な経済指標によると、タイ経済は改善が続いています。民間消費と投資は前月に比べやや下落したものの、前年同月に比べ上向きしました。一方で、先月は鈍化した輸出も改善し、外国人観光客数は回復を続けています。また、外国人旅行者の回復によりサービス部門が回復しています。



出所: BoT, Ministry of Industry, Ministry of Tourism and Sports

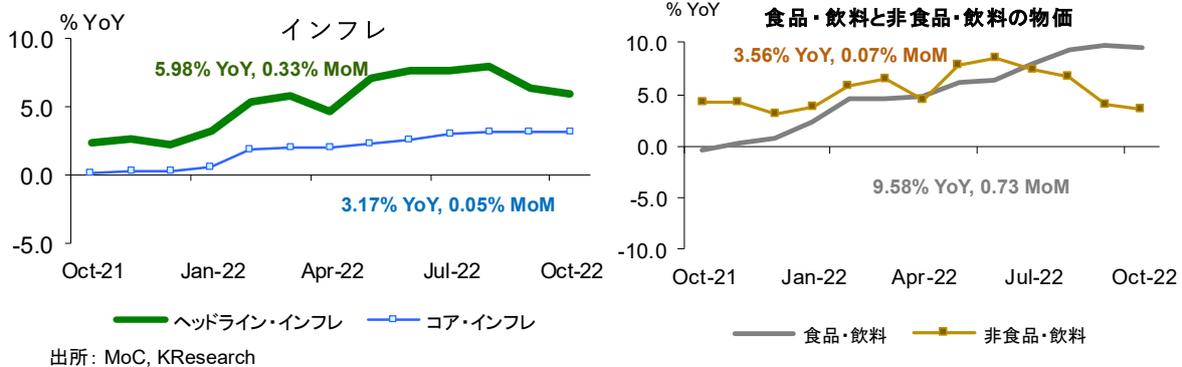
備考: YoY = 前年比; MoM = 前月比

9月の民間消費は前年同月比11.3%拡大しました。旅行者の支出が3.6倍に増えたほか、サービスが29.1%増、耐久財が10.4%増と2桁の増加となっています。非耐久消費財が5.2%増、半耐久消費財も2.2%増とすべての項目で増加しています。

一方で、民間投資は、前年同月比7.7%増加しました。商用車の販売が23.8%増、建設認可を受けた土地の面積が19.0%増、国内の機械販売が16.5%増といずれも2桁の伸びとなりました。建材の販売が5.7%増、機械・設備を中心とした資本財の輸入が0.7%減となっています。

9月の輸出は、前年同月比8.4%増の250億米ドルとなりました。金を除いた輸出額は7.3%増の245億米ドルで、金と石油関連製品を除いた場合は4.9%の増加となっています。

工業生産に関しては、前年同月比3.4%増加しました。このほか、食品・飲料は国内需要の拡大と観光業の回復を背景に生産が拡大しています。



商務省が発表した2022年10月のヘッドライン・インフレ率は、前年同月比5.98%上昇し、前月から減速しました。コスト上昇にもかかわらず、市民生活に不可欠な消費財の価格は安定しており、また、北部などの洪水被害の状況が改善したことで、農産物の供給が回復をみせています。しかし、国際的なエネルギー価格の高止まりや、パーツ安による輸入価格の拡大などの懸念があります。

品目別にみると、食品・飲料部門は9.58%上昇しました。肉・魚が15.02%と2桁の伸びとなったものの、総菜類が9.51%、卵・乳製品が9.42%、調味料が8.96%、外食が8.78%、非アルコールが4.39%、米・粉製品が4.13%といずれも1桁の伸びでした。非食品部門は3.56%上昇しました。運輸・通信が4.84%、住宅が3.56%それぞれ上昇しています。

一方で、振れ幅の大きい生鮮食品とエネルギーを除くコア・インフレ率は、前年同月比3.17%増で、前月と比べ横ばいとなりました。

## 2023年のホテル・宿泊施設の稼働率は最大60%の見通し

カシコンリサーチセンターは、2023年のホテル・宿泊施設の売上高が5,000億～6,000億バーツとコロナ前を下回ると予測します。2023年には外国人旅行者数が2022年見込み比2倍近く増加するほか、イベント・セミナーも回復してホテル業の成長を後押しするものの、不安定要素がまだ多くあり、ホテル・宿泊施設事業の回復の全体に下押し圧力がかかっています。

インフレや燃料価格の高騰、ロシアのウクライナ侵攻などに伴う世界経済の後退リスクがあり、外国人旅行者の回復に影響があると見込まれます。ホテルの新規参入が増え、燃料・製品価格・金利の上昇による事業コストの膨張も事業環境を厳しくすると考えられます。

よって、カシコンリサーチセンターは、2023年のホテル・宿泊施設の稼働率が52～60%と予測します。依然として新型コロナウイルス感染症流行前の2019年の70%を下回り、ホテル間の競争も激化すると見込まれます。一方で、成長するホテル・宿泊施設は、タイ人に人気の北部や西部、アジアや中東の旅行者向け、イベント・セミナー向けと予想しています。

監修：カシコンリサーチセンター

本資料は情報提供を唯一の目的としており、ビジネスの判断材料とするものではありません。掲載されている分析・予測等は、資料制作時点のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。また、予測の妥当性や正確性が保証されるものでもありませんし、商業ないし何らかの行動の為に採用することから発生した損害の責任を取れるものでもありません。本資料の予測・分析の妥当性等は、独自でご判断ください。